ENEOSスーパー耐久シリーズ2026
Empowered by BRIDGESTONE

第6戦 in 岡山国際サーキット

ＥＮＥＯＳ スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE
第6戦　in 岡山国際サーキット

開催地：岡山国際サーキット（岡山県）／3.703km

10月24日（予選）
天候：曇り一時雨　コースコンディション：ドライ　観客数：2,800人

10月25日（決勝）
天候：曇り一時雨　コースコンディション：ドライ　観客数：4,200人

サクセスウェイト80kgに苦しみながら、ベストを尽くした岡山大会で３位を獲得！

2026年もaprは、全7大会で争われるスーパー耐久シリーズに、FIA-GT3で競われるST-Xクラスに臨む。「DENSO LEXUS RC F GT3」をドライブするのは、永井宏明選手と蒲生尚弥選手、小河諒選手、そして嵯峨宏紀選手だ。
オートポリスで行われた前回のレースは4番手からスタートを切り、一時は2番手を走行。好調そのものに見えたが、中盤に発生した足回りのトラブルにより、ピットでの修復を強いられてしまう。それでもレースには復帰でき、波乱の展開の中、4位でフィニッシュ。
その結果、まだチャンピオン獲得の可能性は残しているとはいえ、条件は極めて困難になってきた。しかし岡山国際サーキットが舞台の第6戦を含め、残す2戦でチームが目指すのは連勝のみ！　諦めずに最後まで全力を尽くす。

公式予選　10月24日（土）14:10～

ここまで暑さとの戦いも続いたが、さすがに３か月も間が空くと、季節も変わってコンディションも至って穏やかに。あらゆる負担から解放されたことで、金曜日から開始された走行では、蒲生選手を中心にセットアップが進められていった。
午前中のセッションでは永井選手が、Aドライバー最速となる1分32秒322を記録してくれたのが、実に頼もしい限り。午後のセッションでは蒲生選手が1分31秒788を記すも、ピットストップを繰り返しているあたり、もっと詰めたいという意識の表れだ。その後、ドライブした永井選手は「昨年のタイムにまだ少し届きませんが、いい方向にはあります」と。
土曜日の午前にフリー走行が設けられ、ここで予選に向けた最終チェックが行われるはずが、未明の雨によって路面は濡らされてしまう。それでも、すでにやんでいたから、徐々に乾いていくことに。FCY（フルコースイエロー）シミュレーションが行われた後に、蒲生選手が1分38秒426を記したところで、永井選手に交代。徐々にタイムを縮めて1分38秒530にまで到達していた。
午後からの予選は、一部にウェットパッチを残していたものの、ライン上の路面はほぼドライ。Aドライバーの永井選手は迷うことなく、スリックタイヤを選択した。しかし、気温20度、路面温度も21度という低さもあって、1周せずにピットイン。フロントタイヤのウォームアップが厳しいこともあり、前後のタイヤを入れ替えて、すぐにコースに戻る。実質計測2周目からのアタックとなり、1分32秒490を出した後、1分31秒806で3番手を獲得。80kgのサクセスウェイトを積んで、55kgもの差があることを思えば、上出来な結果と言えるだろう。
続いてBドライバー予選に臨んだ蒲生選手だったが、突然の小雨に見舞われ、思うようにタイムを上げられず。計測2周目からコースを攻めるも1分34秒917に留まり、次の周も1分32秒892。それでも計測4周目には1分31秒321まで縮め、またピットが1コーナー寄りで、すぐにコースインしたことで、チェッカーが振られる直前にコントロールラインを通過でき、ライバルより1周多く走れたことで、最後の最後に1分30秒724をマークして3番手に浮上。永井選手とのタイム合算においても、3番手を得ることになった。
その後のCドライバー予選では小河選手が1分33秒950を、Dドライバー予選では嵯峨選手が1分35秒505をマーク。それぞれユーズドタイヤで決勝セットの確認を行い、予選を終えることになった。

永井宏明選手

タイヤはスリックで行ったんですけど、フロントの温まりがかなり悪いので、後ろと前を入れ替えたんです。路面は乾いていて、路面コンディションは全然大丈夫でした。でも、路面温度が低かったですね、フロントタイヤの発熱には、かなり苦労しました。総合で3番手は上出来で満足です。2列目から走れるので、あとは3時間の短いレースですけど、明日は雨予報とのことで、慎重に走ってゴールを目指したいと思います。

蒲生尚弥選手

コースインして、２、3周はワイパーがいるぐらい降ってきて、なんとかフロントタイヤを温めてギリギリでアタックした感じですね。他の車両も、フルドライの完璧な状態では走れなかったと思います。ピットの位置も良くて、たぶん1周多く行けたのが、僕らにとっては良かったと思います。決勝は天候次第ですけど、サクセスウエイトも効いてるので、しっかり落ち着いて走り、表彰台に上がれたらいいなと思っています。

小河諒選手

走行機会が昨日まであんまりなくて、ある意味、コースの習熟と車、久しぶりのRC Fなんで、思い出すことに集中して走りました。昨日から今日にかけて蒲生選手と永井選手がセットしてくれて、走り出しよりも車のバランスは良くなっているので、ちょっと車は重たいですし、RC Fはもともと岡山が得意じゃないですけど、雨になって荒れる展開だと思うし、4人で最終戦までシリーズもつれるように、走りたいと思います。

嵯峨宏紀選手

予選も含めてコメントが、みんなアンダー方向だってことで、それを加味したセットアップをテストしていたんですけど、まだちょっと曲がらない。車重もあると思うんですけど、四苦八苦はしているんですけど、あとコンマ5ぐらいロングランのラップタイムが上がれば、全然戦闘力はあると思います。やっぱり、重さが効いているのかな？　まあ、やるだけのことはやりました。

金曽裕人監督

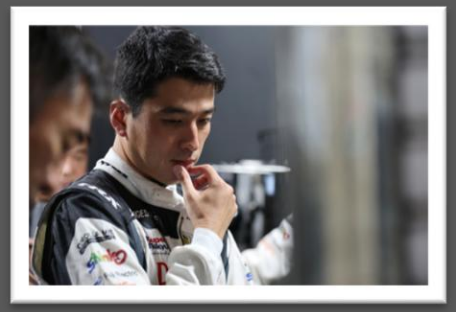
セットアップは何とか前に進んでいますし、ロングランもまだ満足できませんが少しは見えてきました。車が重い中で、この予選順位は非常に立派で、ドライバーはパーフェクト。1位２位のチームは車が軽いわけですし、同じようなサクセスウエイトでシリーズ争っているチームより前からスタートできるので、及第点だと思います。どうしても、特に寒い時期になってくると、前後とも大きいタイヤなので、フロントタイヤのウォームアップが悪いというのがあって、それで永井選手の時、リバースしたり、あの手この手でタイヤを温めてアタックに挑んでもらいました。明日は３番手からですが、スタート直後の数周はかなり苦労すると思います。温まるまでは、ドライバーが相当我慢しなくてはいけないところなので、ある程度の順位ドロップは覚悟しています。確実に走り続ければ、ポイントは獲れるし表彰台もあり得る。最終戦にチャンスが残っている状態で、チャンピオン争いができる状態で明日の決勝レースをしたいと思っています。

決勝レース 10月25日（日）13:30～

今回は２グループ開催で、しかも日曜日に決勝２レースを行うため、ST-Xクラスが属するグループ１は午後からのスタートとなる。ドライバーにとっても、チームスタッフにとっても、普段より遅めのサーキット入りとなった。なお、レースは3時間で競われ、ドライバー交代を伴うピットストップは２回、そしてAドライバーの走行義務は60分とされている。
心配された雨は、先に行われたグループ２決勝の開始直前に降ったものの、グループ１決勝では、しばらく心配はなさそう。今回のスタート担当は小河選手。ST-Xクラス6台のうち、「DENSO LEXUS RC F GT3」を含め、4台がプロドライバーを起用していた。
ところが、サクセスウェイトが効いているのと、タイヤのウォームアップの関係で、思うようにペースが上げられない小河選手は、オープニングラップのうちに5番手に後退。それでもタイヤが発熱するとペースを上げられるようになり、3番手、4番手の車両を視界に置いて周回するも、抜きどころの少ないコースとあって、我慢の走りに徹することに。
そしてアンダーカットを狙い、スタートから45分ほど経過した29周目に永井選手と交代。いったんは6番手に退くも、ライバルチームがドライバー交代を行うたび差を詰め、さらに53周目には1台を捕らえて、永井選手は4番手に。
途中、雨がぱらつくも、1分34秒台の安定タイムを刻み周回を重ねた。
残り1時間強となった68周目に、ラストスティントを蒲生選手に託すことに。4番手のままながら、直前を走る車両は作戦の違いで、まだ最後のドライバー交代を済ませていなかったから、いずれ３位にポジションが上がるのは確実。
実際、100周目に蒲生選手は3番手へと躍り出る。サクセスウエイトの軽い、前の2台とは離されてしまったものの、後ろの2台が徐々に差を詰め始めたが、蒲生選手は後続車とペースを合わせ、正確無比なドライビングで寄せつけるまでには至らず。
3位でゴールしたが、ランキングトップのチームが４位となり、チャンピオンを狙うには2.5ポイント及ばず、その夢は絶たれてしまう。しかし、ランキング2位とは３点差の射程圏内に縮める事に成功。残すは最終戦でシリーズ２位を狙う！
11月14～15日に富士スピードウェイで、4時間レースとして競われる。今シーズンの集大成とすることを誓う！

永井宏明選手

僕が走ったスティントは、雨がちょっと降りコース上は不安定な時間帯もありましたが、タイヤが温まっていたので、僕らはタイム的にも影響は無く、作戦的にもピットタイミングは良かったです。アドバンテージも稼げた状態でバトンも渡せましたし、楽しくバトルも出来ましたし、しっかり表彰台まで車を運べたので満足です。残念ながら、チャンピオン権利は無くなりましたが、最終戦はシリーズ２位を狙い、全員で頑張ります。



蒲生尚弥選手

本当にチームの皆さんのおかげと、作戦も良かったし、最低限の目標だったシリーズ１位、２位のチームの上でゴールし、更に３位表彰台が獲れたのでサクセスウエイト考えれば、いいレースだったと思います。本当に、皆さまお疲れ様でした。とりあえず良かったです。

小河諒選手

サクセスウエイトが響いたのと、スタート直後のフロントタイヤが温まるまでは厳しかったんですけど、チームの戦術と、永井選手がしっかりコース上でライバルを抜いてくれたのが、今回の表彰台獲得のいちばんのポイントだったと思います。展開も良かったし、蒲生選手もチェッカーまで確実な走りで最高のレースになったと思います。チャンピオンは厳しいですけど、なんとかシリーズ2位を狙っていけるように、最終戦は集大成で、みんなで準備していきたいと思います。

嵯峨宏紀選手

なんとかシリーズ争いのメルセデス２台より前にいることができたので良かったです。でも、チャンピオンの可能性はなくなっちゃったのですが、シリーズ2位を死守するため、最終戦に向けて準備したいと思います。

金曽裕人監督

3時間レースで作戦の幅が狭い中で、この重さでの3位は、本当にドライバーが頑張ってくれましたし、メカニックもよく頑張ってくれたと思います。残念ながら、チャンピオンは獲れませんでしたが、最終戦は絶対にシリーズ2位は獲ってやる勢いで挑みたいですし、トラブルを絶対に出さないようにします。前戦のオートポリスも速さはありましたが、トラブルによって表彰台が見えていたレースを落とし、チャンピオンが遠のいたターニングポイントとなり、我々の大きな反省点です。最終戦は、悔いなき全力で攻めたレースを致しますので応援くださる皆さま、ご期待ください。